

南ア月報  
(2020年9月)

【内政】

- ジョージ・ビゾス氏の逝去
- ロックダウン警戒レベル2から1への引き下げの発表
- ロックダウン警戒レベル1への移行
- 国境の一部再開の詳細発表

【外政】

- イランによる駐南ア米国大使暗殺計画に関する報道
- 安保理改革に関する IBSA (インド・ブラジル・南ア) 諸国外相共同声明
- ラマポーザ大統領による国連総会一般討論演説

【経済】

<経済指標>

- 消費者物価指数
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高
- GDP 成長率
- 失業率

<出来事>

- 南ア準備銀行(中銀)が政策金利を3.5%に据置き
- 南ア鉱物資源エネルギー省が1万1,800メガワットの電力調達プランを発表

【広報・文化】

- 2020年東京大会『復興「ありがとう」ホストタウン』宮城県岩沼市から南ア・スポーツ連盟・オリンピック委員会(SASCOC)への新型コロナウイルス支援七夕飾りの贈呈
- プレトリア大学における日本語講座の開講
- 日本留学フェアの開催

【警備】

- 南ア治安情勢(野党 EFF による抗議活動)

## 1 内政

### ●ジョージ・ビズス氏の逝去

9日、アパルトヘイト下における裁判でネルソン・マンデラ等の弁護を担当した南アの弁護士ジョージ・ビズス (George Bizos) 氏が逝去した。11日、ラマポーザ大統領は声明を發出し、人権弁護士であり社会活動家でもある故ジョージ・ビズス氏の名誉を称え、この威厳のある南ア人のために特別公葬のカテゴリー1 (a Special Official Funeral Category 1) を宣言し、12日から17日の特別公葬まで半旗が掲揚された。

### ●ロックダウン警戒レベル2から1への引き下げの発表

16日、ラマポーザ大統領は演説を行い、9月21日(月)からの警戒レベル1への引下げ及び10月1日(木)からの国境の一部再開について発表した。警戒レベル1では、経済活動に対する残りの制限の多くが取り除かれたが、集会は条件を緩和しつつも引き続き人数を制限、夜間外出禁止令は午前0時から午前4時まで時間を短縮して継続されるなどの規制が維持され、国家的災害事態 (national state of disaster) が10月15日まで延長となった。

### ●ロックダウン警戒レベル1への移行

21日、南アはロックダウン警戒レベル1へと移行した。

### ●国境の一部再開の詳細発表

30日、パンドール国際関係・協力大臣、モツォアレディ内務大臣、ムバルラ運輸大臣及びヌグバネ観光大臣が会見を行い、国境の一部再開の詳細について発表した。南ア政府はWHOの基準を参考に、高リスク・中リスク・低リスク国の3種類に分類し、高リスク国からの観光目的での南ア入国が禁止される(ビジネス目的等はOK)。また、南ア入国時には、出発72時間以内のPCR検査の陰性証明書が必要となる。米、英、仏、ロシア、インド、ブラジル、オランダ、カタール、UAE、アルゼンチン、メキシコ、イラン、イスラエル、スイス、ポルトガル等60ヶ国が高リスク国に指定され(日本は含まれず)、2週間ごとに見直しが行われる。

## 2 外政

### ●イランによる駐南ア米国大使暗殺計画に関する報道

15日付当地プレトリアニュース紙は、「南アは、マークス大使を守ることを誓う (SA vows to protect Marks)」と題された記事を掲載した。報道によれば、国家安全保障庁はイランによるマークス駐南ア大使暗殺計画に関する報告に留意しており、同大使の安全を保障するために国内及び国外の関係機関と情報を交換しているとのことである。ドロドロ国家安全保障大臣は、「南アは、同国内で職務を遂行している全ての外交官を最大限保護する義務がある。調査の詳細な進捗状況に関しては、事案の性質や危険性を鑑み、回答を差し控えた」と述べた。

### ●安保理改革に関するIBSA(インド・ブラジル・南ア)諸国外相共同声明

16日、国際関係協力省は、安保理改革に関するIBSA(インド・ブラジル・南ア)諸国外相共同声明を發出し、国際社会に対し、包括的な安保理改革に向けた具体的な成果を出すために努力を倍加し、そのためのコミットメントを強化することを訴えた。3カ国の外相は、より代表性が確保され、包括的で公平で柔軟性に富み、効率的な安保理を目指し、常任理事国及び非常任理事国双方のカテゴリーにおいて、アジア、南米、アフリカの新興国や途上国

の代表を加えて、安保理を拡大するために努力するというコミットメントを再確認し、遅々として進まない IGN（政府間交渉）プロセスへのフラストレーションを表明した。

### ●ラマポーザ大統領による国連総会一般討論演説

22日、ラマポーザ大統領は第75回国連総会において一般討論演説を行った。同大統領は、本年7月に行われた第18回国際マンデラデーの講演におけるグテーレス事務総長の発言に言及し、新しい世界的分配の精神から、国際社会と国際的なパートナーに対し、アフリカ諸国のための包括的刺激策の策定を支援するよう呼びかけた。同大統領は、ブラック・ライヴズ・マター運動にも言及し、制度化された人種差別主義による苦悩を知り尽くした国として、個人、会社または国家による人種差別に対する早急な処置を求める要求を支持する旨述べた。また、同大統領は、北京行動綱領採択25周年に言及し、女性及び少女のエンパワーのための努力を強化することが必要であり、女性と少女には、職場、政治的な活動及び意思決定、教育の享受及び社会参加への完全で公平な権利があると述べた。同大統領は、安保理改革にも言及し、安保理においてアフリカの代表性がより大きく確保されること、及びIGN再開の必要性を訴えた。さらに、同大統領は、今後の経済回復においては、雇用創出と経済発展のために、環境に配慮した循環型経済を発展させていかなければならないと述べた。

## 3 経済

### <経済指標>

#### ●消費者物価指数

2020年8月の消費者物価指数（CPI）は、前月に比べ0.2%上昇した。年間消費者物価インフレーション率は3.1%と、前月に比べ0.1%低下した。（南ア統計局、9月30日）

#### ●為替レート

2020年9月30日付（南ア準備銀行）

6.2427 ランド/円

16.9231 ランド/米ドル

19.8440 ランド/ユーロ

#### ●製造業生産高

2020年7月の製造業は、前年同月比10.6%減。主なマイナス要因は、食料品及び飲料で11.4%減、自動車及び輸送機器関連製品で26.9%減、鉄鋼、非金属製品、金属製品及び機械で11.6%減、木材及び木材製品、紙、出版及び印刷で13.1%減。また過去3ヵ月（2020年5月～7月）の季節調節後生産高は2020年2月～4月の3ヵ月から2.9%減。製造業10部門中4部門で生産高減となった。（南ア統計局、9月10日）

#### ●鉱業生産高

2020年7月の鉱業生産高は、前年同月比9.1%減。主なマイナス要因は、その他非金属鉱物で44.9%減、石炭で8.5%減、鉄鉱石で19.0%減、クロム鉱石で32.5%減、金で10.2%減。また過去3ヵ月（2020年5月～7月）の季節調節後生産高は2020年2月～4月の3ヵ月から3.7%増となった。（南ア統計局、9月10日）

## ●GDP 成長率

南ア統計局は 2020 年第 2 四半期の GDP 成長率を発表。第 1 四半期との前期比マイナス 16.4%、前期比年間換算成長率マイナス 51.0%（注：「年間換算」とは、前期比の成長率が今後 1 年間続くと仮定した場合、年間成長率がどのようになるかを測定する方法）。これで、2019 年第 3 四半期から 4 期連続でのマイナス成長となった。産業別にみると 10 部門全てでマイナス成長を記録し、3 月 27 日から施行された当地ロックダウン措置の影響を大きく受けた。（南ア統計局、9 月 8 日）

## ●失業率

南ア統計局は 2020 年第 2 四半期の失業率を 23.3%と発表。2020 年第 1 四半期よりも就労者数は 220 万人減少。失業率数は前期比よりも 280 万人減少したものの、求職活動を含む経済的活動を行っていない「経済的非活動者 (not economically active)」の数は 560 万人増加。これは、3 月 27 日から施行された当地ロックダウン措置により、失業中にもかかわらず求職活動が不可能な状態が継続したためである。（南ア統計局、9 月 29 日）

## <出来事>

### ●南ア準備銀行（中銀）が政策金利を 3.5%に据置き

18 日、南ア準備銀行は、前回 7 月の金融政策委員会から引き続いて政策金利を 3.5%で据置くことを発表。当地エコノミストの中では、南アの第 2 四半期 GDP 成長率が、前期比マイナス 16.4%、前期比年間換算成長率マイナス 51.0%という経済状況の中で更なる政策金利の引下げが予想されていた。しかし、カンヤゴ総裁は金利を据置いた理由として、年間インフレーターゲットに対する見通しが政府の目標範囲内に収まっていることを挙げた。また、同行は 7 月に発表した 2020 年の年間 GDP 成長率をマイナス 7.3%からマイナス 8.2%へと下方修正した。

### ●南ア鉱物資源エネルギー省が 1 万 1,800 メガワットの電力調達プランを発表

25 日、南ア鉱物資源エネルギー省は、電力の供給安定を目的とし、2019 年に発表された電力統合資源計画（IRP）に沿った、石炭火力の比率を下げ、再生可能エネルギーの割合を拡大させるための新規の電力調達プロジェクトを発表。発表された 1 万 1,800 メガワットの内、半分以上の 6,800 メガワットを太陽光及び風力発電から調達する。

## 4 広報・文化

### ●2020年東京大会『復興「ありがとう」ホストタウン』宮城県岩沼市から南ア・スポーツ連盟・オリンピック委員会(SASCOC)への新型コロナウイルス支援七夕飾りの贈呈

3 日、南アの復興「ありがとう」ホストタウン宮城県岩沼市のみなさんが新型コロナウイルスと戦う南アを応援するために心をこめて作成した七夕飾りが、南ア・スポーツ連盟・オリンピック委員会(SASCOC)に届けられた。

### ●プレトリア大学における日本語講座の開講

8日、プレトリア大学日本研究センター協力の下、同大学生涯学習部門において今期の日本語講座がオンラインによりスタートした。なお、同日本語講座は、2013年以降半期ごとに実施されており、日本語学習の機会が少ない南アにおいて、貴重な機会の一つとなっている。

### ●日本留学フェアの開催

文部科学省「日本留学海外拠点連携推進事業（アフリカ・サブサハラ地域）」（北海道大学が受託）主催による日本留学フェアが、14日から18日にかけてオンラインで開催され、約620名の南ア人学生らが参加した。当館のほか日本の42大学から留学制度等についての説明が行われたほか、22大学と参加者が直接やりとりする機会も設けられた。

## 5 警備

### ●南ア治安情勢（EFFによる抗議活動）

7日以降数日間にわたり、大手薬局チェーンのクリックス社によるヘアケア商品の広告が人種差別であるとして、野党EFFが全国的に同社店舗前にて大規模な抗議活動を行った。

同黨員らによる店舗前での抗議活動の他、商品などの破壊、店舗出入口にチェーンを巻き付けて閉鎖するなどの行為が見られた。

一連の抗議活動に関し、同社各店舗が休業する、国会議員を含む黨員らが逮捕される、他の量販店において広告の対象となったヘアケア商品の販売を見合わせるなどの事態に発展した。

10日、同党とクリックス社及びヘアケア商品発売元のユニリーバ社とがそれぞれ話し合いを行い「衛生用品の寄付」「奨学金の提供」などで合意し終結した。